

地域の将来像:住んでいる人々が誇れる郷 明日の小山田の創造

コミュニティだより

2021.1.15

第54号

明日の小山田を考える会の目的は、住んで良かった・ずっと住み続けたい・住み良い地域を創ることです。そのためには、地域の皆さんの積極的な関わりが必要です。

「紙ねんど工作教室」 子から丑へバトンタッチ

12月25日、石鳥谷町の鎌田友律子講師をお招きし「紙ねんど工作教室」を開催しました。2021年の干支「丑（うし）」



のかわいいい置物を講師の説明を聞きながら夢中になって作っていました。顔の表情や体の模様はそれぞれ工夫をこらしていました…さすがに黒毛和牛はありませんでしたが(^^;



皆さん、完成した丑の置物をみて満足気でした。参加者からは「細かい作業があって大変だったけど楽しかった」、「自分の干支の置物を作れてうれしかった」などの感想をいただきました。干支の紙ねんど工作教室も今回で9回を数え、十二支が全部揃うまで残り3回となりました。全部揃えたいですね！



ピカピカの1年生へ記念品を贈ります

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度取りやめとしていた「後継者育成郷土芸能発表会」と「新入生お祝い会」ですが、小学1年生になる対象児童へ後日記念品をお贈りしますので楽しみに待っててくださいね。4月、小山田地域から元気に小学校へ通学するお子さんは10名の予定です。温かく見守っていきましょう。



町内の農事組合法人から学ぶ



12月18日、町内の「農事組合法人ガンバいさご」代表の菅金夫氏をお招きし「組織化による効率的な農業の実現と基盤整備」をテーマにご講演をいただきました。小山田地域の農業に携わる20名の参加をいただき、近年目まぐるしく変動する農業情勢に対する対応策とより効率的な農業生産活動について学びました。現在砂子地域では農業従事者の

高齢化や、米価の下落等に対応するため効率的な農業の実現に向け、補助整備事業など色々な事業に取り組んでいるとの事でした。



市と市民の協働によるまちづくり

花巻市では、市民の皆様と協働のまちづくりを進めるため、各コミュニティ会議ごとに市政懇談会を開催しています。小山田地域は11月16日午後6時から小山田振興センターを会場に、上田東一市長をはじめ12名の市職員と地域住民約20名の出席をいただき開催され意見交換をしました。当地域から

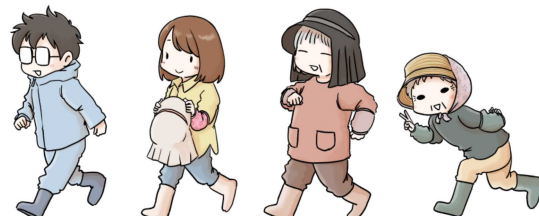
あげられた懇談テーマは二つ。一つは「高齢者の季節性インフルエンザ予防接種費用の無料化について」、もう一つは「小山田地区における花巻市指定緊急避難場所について」です。そのほかフリートークもあり貴重な時間となりました。



コミック本「農家メシ！」・著者/パウロタスク



東京で働く会社員が、岩手県花巻市小山田で農家を営む妻の実家に婿入り！初めての農家暮らしは目からうろこの連続。これまで食に興味がなかったものの、野菜もお米も、採れたての新鮮な食材を使って作られる農家の食事は格別。美味しくて楽しい農家のご飯と、農家の生活を面白可笑しく紹介しています。私たちが、慣れ親しんで生活しているこの地域を自らが感じた気持ちをそのまま素直に書き下ろしたコミック本です。皆様も是非読んでみてください。



書店で絶賛発売中！定価（本体1,300円＋税）

漫画家パウロ 妻なるる 妻の母すずよ 妻の祖母マツ

今年も本格的な雪のシーズンが到来

今年も本格的な雪のシーズンが訪れました。花巻市の軽度生活支援事業登録者以外で、おおむね65歳以上の一人暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯等で、別居の家族、親族等から除雪の支援を受けられない世帯を対象に、自力での除雪作業が困難な方々を支援するため、小型除雪機を導入しました。除雪作業でお困りの方は行政区長・民生委員・事務局までご連絡ください。



【除雪作業料金】

除雪作業費：1,400円／時間

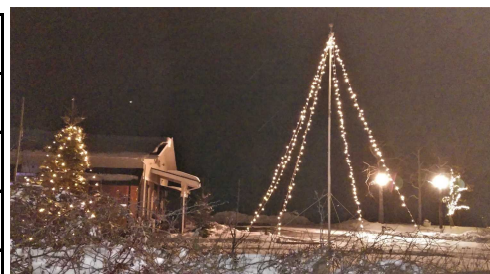
除雪機運搬費、燃料代は当会より助成します。

令和2年12月末現在

(): 前月比

小山田の人口	世帯数/戸	男/人	女/人	計/人
第1行政区	62 (+1)	96	77	173
第2行政区	149	211 (+1)	207 (-1)	418
第3行政区	157 (-1)	221 (-4)	237 (-1)	458 (-5)
第4行政区	110 (-2)	185 (-2)	176 (-3)	361 (-5)
計	478 (-2)	713 (-5)	697 (-5)	1,410 (-10)

※花巻市住民登録人口集計表を基に作成しています



冬の夜空を彩る
「PATISSERIE 菓音」の
イルミネーション

発行：明日の小山田を考える会 電話：0198-42-2941

ホームページ：<http://www.asuno-oyamada.jp>

メールアドレス：asuno-oyamada@tuba.ocn.ne.jp



脚光を浴びる家族農業 その1

明日の小山田を考える会
会 長 菊 池 保 守

皆様 新年あけましておめでとうございます。

早いもので、花巻市主導により進められてきた、地域づくり団体としてのコミュニティ会議（明日の小山田を考える会）も14年が過ぎようとしております。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当会が主催する各種事業も縮小ないし中止を余儀なくされました。それに伴い将来を見据えた新たな事業の構築について三役会で協議し、その結果、土壌診断の研修会開催や実際に土壌診断を希望する農業者を対象に圃場の施肥設計まで行えるよう分析装置を導入し対応することといたしました。当地域は農業が主体の地域ですので、これからの地域農業の発展に少しでも寄与できればと思っております。どうぞご活用ください。

さて、NHKのクローズアップ現代によると、家族農業が見直されているとのことです。（参考までに、家族農業に関する国連の定義は、労働力の過半を家族労働力でまかなう農林漁業と定義しています。）

その根拠として一つには、国際連合は、2019年からの10年間を「家族農業の10年」とし、2017年に我が国を含む104か国の支援により国連総会で可決されたことです。



その概要は、①各国が家族農業に係る施策を進めその経験を他国と共有 ②FAO（国際連合食糧農業機関）等の国際機関は各国等による活動計画の策定・展開を誘導することなどとなっています。

我が国の場合、**家族農林漁業プラットフォーム・ジャパンが推進力となり、政府は各国における取り組み**を把握することとしています。

二つには、番組でもあったようにコロナ禍の中にあって、食への関心が高まった消費者と安全な農産物を生産している小規模農業者がネットでつながり、確実に売り上げを伸ばしている事例や脱サラして新たに家族農業に取り組んでいる若者が最近増えていること などです。キーワードは安全な農産物の生産です。

これからの視点は、安全な農産物の生産と販売力、ICT（情報通信技術）の活用力なのかもしれません。時代は着実に変化しています。

～ 編集後記 ～

新年あけましておめでとうございます。昨年は日本をはじめ全世界が新型コロナウイルス感染症拡大により大混乱を起こしました。年が明け、この感染症拡大が収束する事は誰もが願っている事です。収束したら皆さんは真っ先に何をしたいですか？

私は……、仲間と食べて飲んで騒ぎたいですね。

（菊池）

